

首都圏でも人気の高い東急東横線、東急田園都市線沿線の新築マンション価格が2007～08年に急上昇し、首都圏平均価格との乖離(かいり)が広がっていることがマンションコンサルティングのトータルブレイン(東京・港)の調査で分かった。同社は両沿線とも中古市場と比較してもバ

首都圏新築マンション

ランスを欠いていると指摘。価格調整が必要だとみている。

調査は東急東横線が代官

東急2沿線 価格急上昇

山一反町、東急田園都市線が池尻大橋―中央林間までの各駅での新築マンションの分譲価格を対象にした。

00年～04年に供給された新築マンションの平均坪単価は首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)平均が176万8千円だったのに対し、東急東横線は225万6千円と28%、東急田園都市線は204万円と

平均との乖離広がる

07～08年、民間調べ

15%それぞれ高かった。しかし08年になると、首都圏平均が214万8千円に上昇した一方で、東急東横線では303万5千円と首都圏平均に比べて41%、東急田園都市線では281万8千円と31%それぞれ高くなり、急上昇ぶりが浮き彫りになった。